ＧＬＡ－ツイン－１４組立説明書

ＧＬＡ－ツイン－１４をお買い上げ頂き、誠にありがとうございます。
本製品の組立を行う前に、部材の有無の確認のために説明書を必ずお読み下さい。
また、ＧＬＡ－０７の部品も使用しますので、そちらの組立説明書も必ずお読み下さい。

組立てる前に　説明書をよく読んだ後、順序に従って作業を進めて下さい。

- 必要な梱包数は１９梱包です。右の一覧表を見て部材の有無を確認しましょう。
- 半ブロックを１５コ用意して下さい。（本製品には含まれておりません。）
- 半ブロックは、建材店・ホームセンターなどでお求めになれます。
- オプション（別売）の棚板・棚柱セットで棚板が増やすことができます。
- 紛失に備えて、鍵の刻印番号を取扱説明書に控えておいて下さい。

組立て時のご注意　つぎのことに気を付けて、安全に作業して下さい。

- 作業中は、手袋・長袖シャツ　など必ず保護具の着用をして下さい。
  ※部材の角などでのケガの原因になります。
- お客様ご自身で組立てをされる場合は、安全の為２人以上で行って下さい。
  ※１人で無理をすると、部材が倒れたり、落下してケガをしたりします。
- 強風の日には、施工しないで下さい。
  ※部材が飛散したり，倒れてケガをします．
- ボルト・ナットは、余分に入っているものがあります。
- インパクトドライバー等でボルト・ナットを強く締めすぎると、部材が変形したり、組み直しができなくなるケースがあるので注意して下さい。
- （ナット不要）と書かれている部分は、ナットなしでもボルトが締まります。

組立て終了後

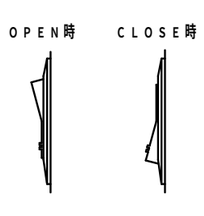
- ボルト・金具類の付け忘れやゆるみがないか確認して下さい。
  ※強度が弱くなり、強風・雪などで倒壊します。
- 物置の転倒防止のためアンカー工事を必ず行なって下さい。
  また、作業終了後すぐに収納物を入れて下さい。
  ※強風により転倒します。

設置場所のご注意　つぎのような場所へは、設置しないで下さい。

- 家屋等の建造物から雨や雪などが落ちてくる場所
  ※物置の変形・破損により、雨漏りの原因になったり収納物に被害を与えます。
- 屋根・屋上・崖の淵など、安全の確保が出来ない場所
  ※強風により、転倒・落下の危険があります。

錠前について

・ワンプッシュで一時的な施解錠（仮ロック）できます。
　錠前上部を押す　ＣＬＯＳＥ：施錠
　錠前下部を押す　ＯＰＥＮ　：解錠
・カギで施錠する場合は、錠前上部を押し、仮ロック状態にしてからカギで施錠して下さい。
　注）仮ロックせずにカギで施錠しようとすると、錠前が故障する恐れがあります。



室内寸法：間口　１６８１mm
　　奥行　１０７５mm
　　高さ　１９１０mm

開口寸法：間口　　９８０mm
　　高さ　１８１０mm

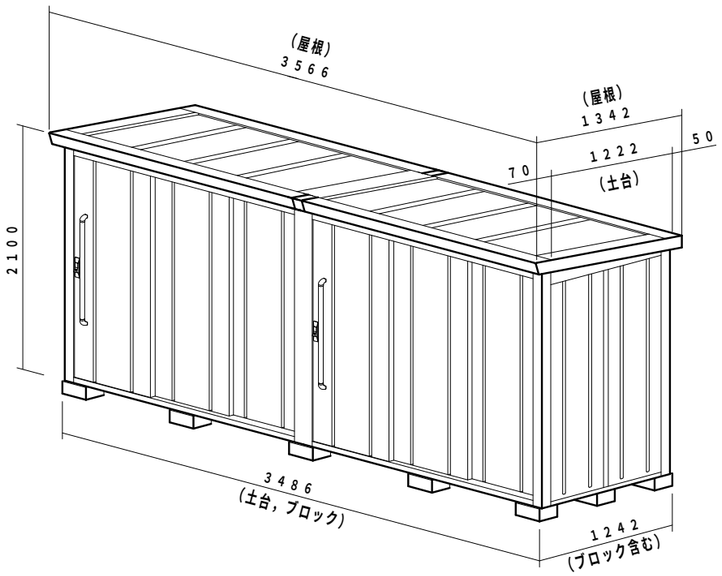
※１棟当りの寸法となります。

耐荷重

床板：５８８０Ｎ／m²（６００ｋｇｆ／m²）

屋根：１１７６Ｎ／m²（１２０ｋｇｆ／m²）
　積雪約６０ｃｍ

棚板：１９６０Ｎ／m²（２００ｋｇｆ／m²）
　棚板大１枚につき等分布荷重で約７０ｋｇまで物を載せられます．
　ただし、棚板の強度の関係から、棚板全部にのせられる総重量は２００ｋｇ／m²までです。



梱包別部材一覧表

梱包	番号	部品名	数量
柱（追加）		連棟前柱	1
		連棟前柱　中	1
		連棟後柱	1
		連棟後柱　中	1
		連棟用中柱Ａ	1
		連棟用中柱Ｂ	1
	18	中柱	2
	20	前柱補強　左	1
	21	前柱補強　右	1
パネル３１	16	壁パネル	5
土台Ａ（追加）	1	土台前（下レール）	1
	2	土台前（パネル固定）	1
	3	土台後	1
	6	根太受け	1
	14	上枠　前	1
	15	上枠　後	1
	98	連棟用鼻隠し後	1
	99	連棟用鼻隠し前	1
		連棟用母屋	1
中柱		連棟用母屋取付柱	4
部品箱（連棟用）			1

梱包	番号	部品名	数量
床板	7	床板パネルＡ	2
	8	床板パネルＢ	1
		根太	6
屋根（追加）	23	角波（標準）	3
		角波（連棟用）	1
棚柱１１	36	棚柱　後	2
	37	棚柱　枠	4
	38	棚柱　前	2
	40	棚板　大	2
扉	31	前パネル	1
	32	後扉	1
	33	前扉	1
	43	扉ストッパー	2
	35	扉ガイド	1
土台Ｂ（追加）		土台中央	1
		上枠　中	1
		妻板　中	1
	5	土台横　右	1
	22	屋根押え	4
		引手（アルミ）	1
		スポンジシール１ｍ	4

梱包	番号	部品名	数量
土台Ａ（基本）※	1	土台前（下レール）	1
	2	土台前（パネル固定）	1
	3	土台後	1
	6	根太受け	1
	14	上枠　前	1
	15	上枠　後	1
	19	鼻隠し後	1
	23	鼻隠し前	1
		連棟用母屋	1

※ＧＬＡ－０７「土台Ａ」の替わりに使用します。

本製品の組立は、ＧＬＡ－０７の「土台Ｂ」、「柱」、「パネル１」、「パネル３」、「床板」、「屋根」、「棚柱１」、「扉」の梱包も使用します。上記梱包の内容については、「ＧＬＡ－０７　組立説明書」を参照して下さい。

部品箱一覧表

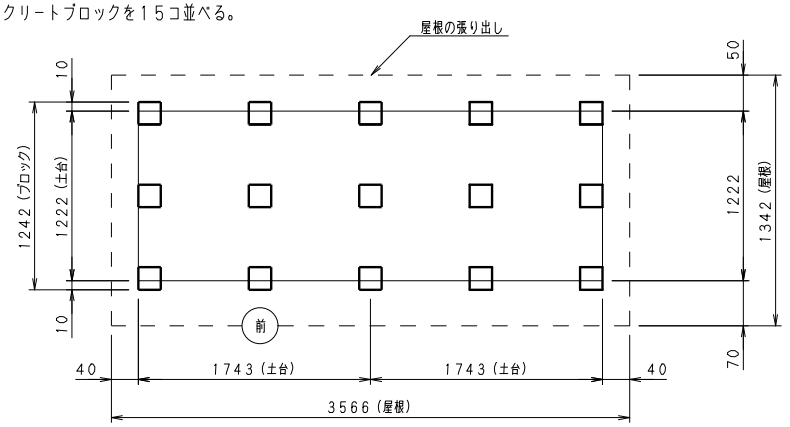
部品名	数量
Ｍ６ｘ１０メッキボルト	７１
Ｍ６ｘ１０カラーボルト	４２
Ｍ６ｘ１２　ネジ Ｗ＋ＳＷ付き	2
Ｍ６ｘ３０ボルト（高さ調整用）	4
Ｍ６ｘ５５メッキボルト	２９
Ｍ６ナット	５９
スプリングワッシャー付き Ｍ６ナット	9
引手 取付具	2
錠前（ビス付き）	1
鼻隠し前補強	1
鼻隠し後補強	1
連棟用母屋取付具	1

部品名	数量
鼻隠し前カバー	1
鼻隠し後カバー	1
鍵穴シール	1
連動コマ取付具	1
棚受け金具	8
戸車取付金具	4
扉振れ止め	4
戸車 φ２６	4
連動用コマ φ２２	1
Ｏリング	1
組立説明書	1

1

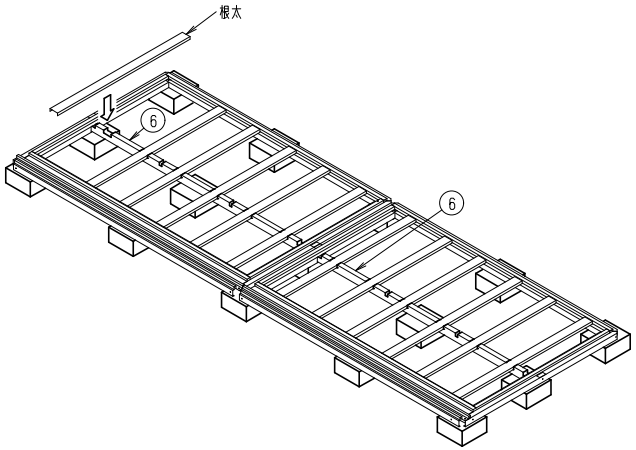
1．地ならしをして十分に地固めして下さい。
※不十分だと後で組立てしにくくなります。

2．コンクリートブロックを１５コ並べる。



3

1．根太受け⑥の溝に根太１２本をセットする。



2

1．土台横　右⑤、連棟土台横　中を組み合わせる。＜A図参照＞
（Ｍ６ｘ１０メッキボルト２コ）

2．土台前（下レール）①、土台前（前パネル固定）②で土台前を作る。
（Ｍ６ｘ１０メッキボルト　２コ）（Ｍ６ナット　２コ）＜B図参照＞
※2セット分製作します。

＜基本棟側＞

3．根太受け⑥を土台横　左／右④⑤にある角穴に差し込む。
※根太受けは前後方向があります。注意して下さい。

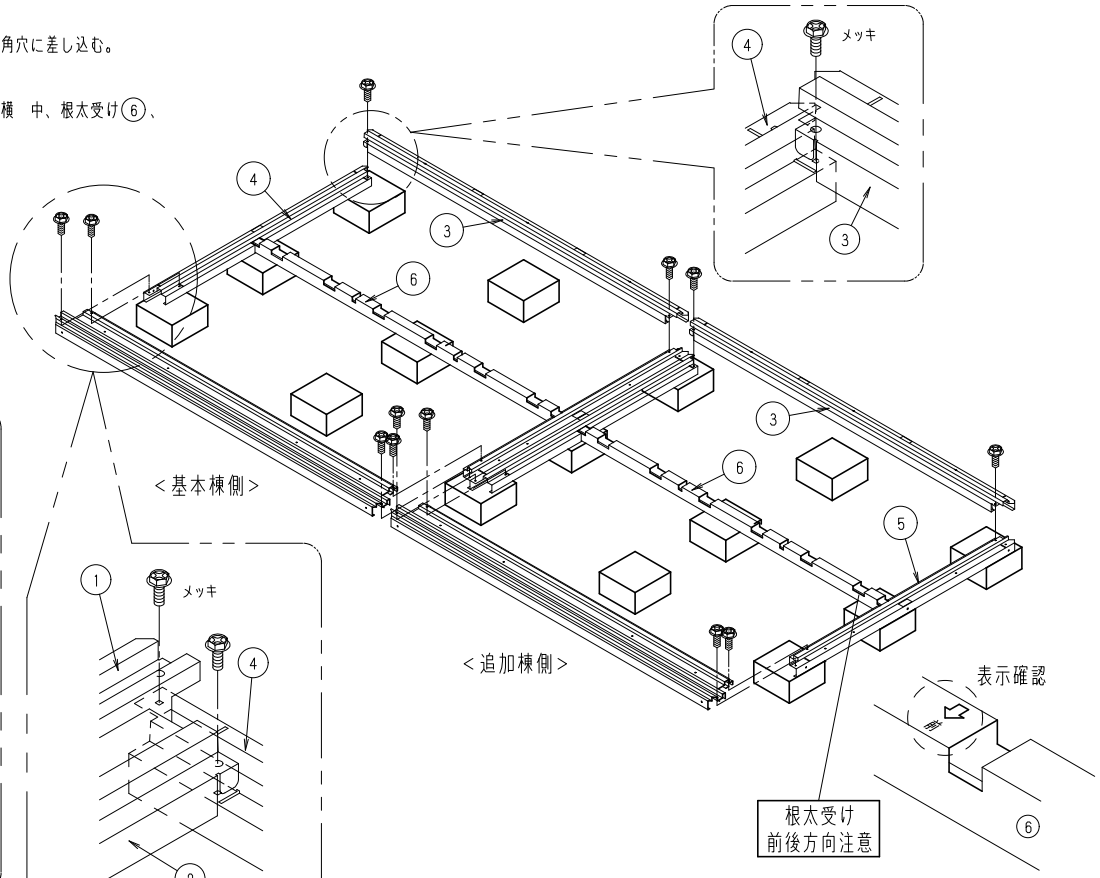
4．土台前①②、土台後③、土台横左／右④⑤、根太受け⑥、
１．で組み合わせた土台横　中で枠を作る。
（Ｍ６ｘ１０メッキボルト　６コ）
※四隅が直角になるようにして下さい。
（対角線の長さを等しくすれば直角がでます。）

＜追加棟側＞

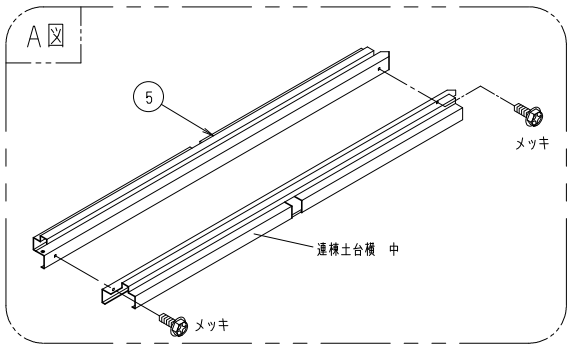
5．根太受け⑥を連棟土台横　中、土台横　右⑤にある角穴に差し込む。
※根太受けは前後方向があります。注意して下さい。

6．土台前①②、土台後③、土台横右⑤、連棟土台横　中、根太受け⑥、
（Ｍ６ｘ１０メッキボルト　６コ）
※根太受けは前後方向があります。注意して下さい。
※四隅が直角になるようにして下さい。
（対角線の長さを等しくすれば直角がでます．）

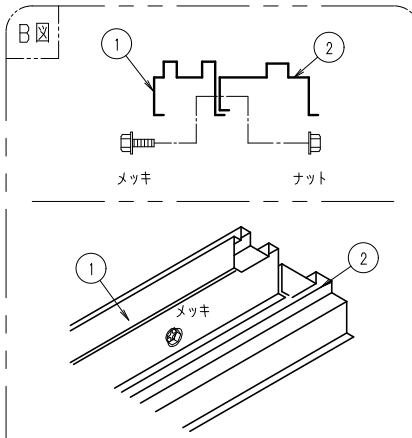
7．土台全体が水平になるように水準器で調整して下さい。
※十分に行わないと、手順が進むに連れて組立てしにくくなります。
※付属の水準器の精度は目安程度の物です。



A図



B図



土台前（下レール）、土台前（前パネル固定）を下から見た図

4

＜基本棟側＞

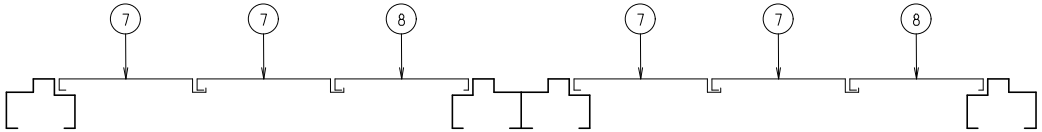
1．土台の上に床板パネルA⑦２枚を向かって左から順に並べる．

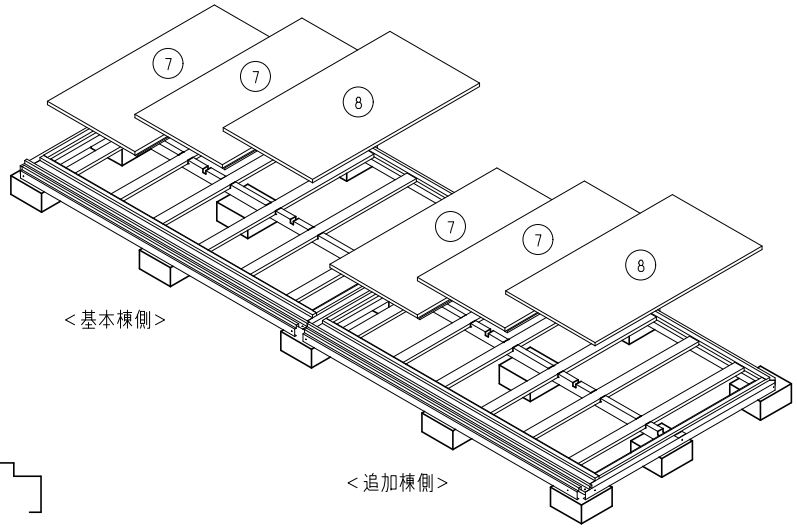
2．床板パネルB⑧を最後に土台の上に並べる．

＜追加棟側＞

1．土台の上に床板パネルA⑦２枚を向かって左から順に並べる．

2．床板パネルB⑧を最後に土台の上に並べる．





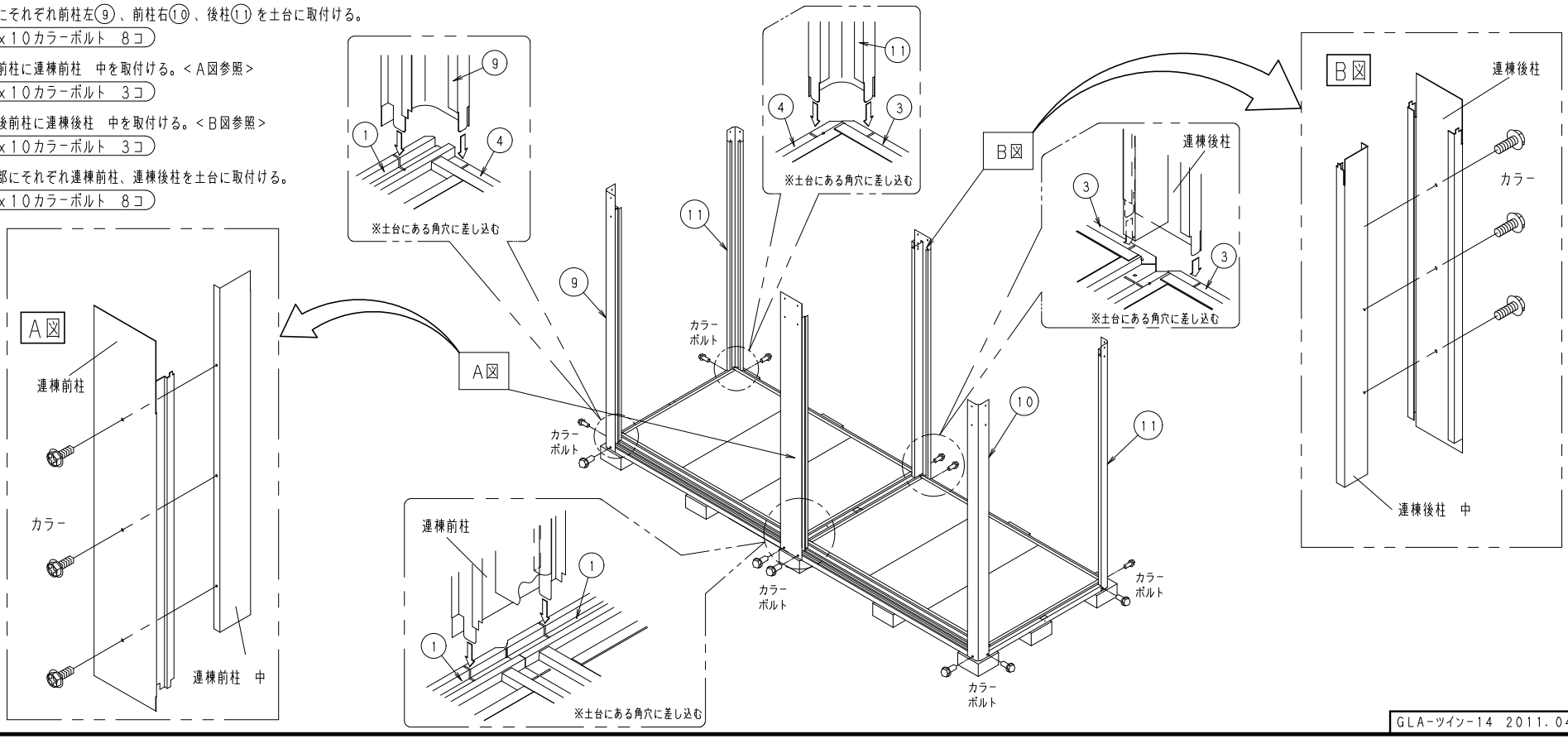
5

1．四隅にそれぞれ前柱左⑨、前柱右⑩、後柱⑪を土台に取付ける。
M６x１０カラーボルト　８コ

2．連棟前柱に連棟前柱　中を取付ける。＜A図参照＞
M６x１０カラーボルト　３コ

3．連棟後前柱に連棟後柱　中を取付ける。＜B図参照＞
M６x１０カラーボルト　３コ

4．中央部にそれぞれ連棟前柱、連棟後柱を土台に取付ける。
M６x１０カラーボルト　８コ



6

1．上枠横左／右⑫⑬の前後にある穴に前柱左／右⑨⑩と後柱⑪のツメをそれぞれ差し込むように取り付ける。
＜A図・B図参照＞
（M6x10カラーボルト　4コ）（M6ナット　4コ）

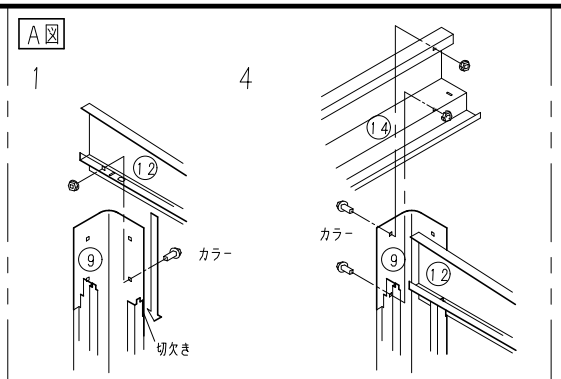
2．上枠前⑭と上枠後⑮の上部（端から端まで）にスポンジシールを貼り付ける。
※使用する際は保護紙をはがして下さい。
※長さはテープを切ってつないで調整して下さい。
各2セット分製作する。

3．上枠後⑮の左右にある穴に後柱⑪、連棟後柱のツメを差し込むように取り付ける。
連棟側の連棟後柱に鼻隠し後補強を上枠後⑮と友締めして取り付ける。
＜B図・D図参照＞
（M6x10カラーボルト　8コ）（M6ナット　8コ）

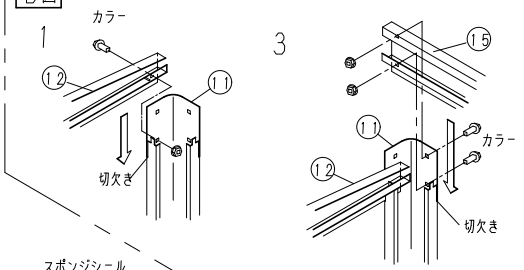
4．上枠前⑭の左右にある穴に前柱左／右⑨⑩、連棟前柱のツメを差し込むように取り付ける。
連棟側の連棟前柱に鼻隠し前補強を上枠前⑭と友締めして取り付ける。
＜A図・C図参照＞
（M6x10カラーボルト　8コ）（M6ナット　8コ）

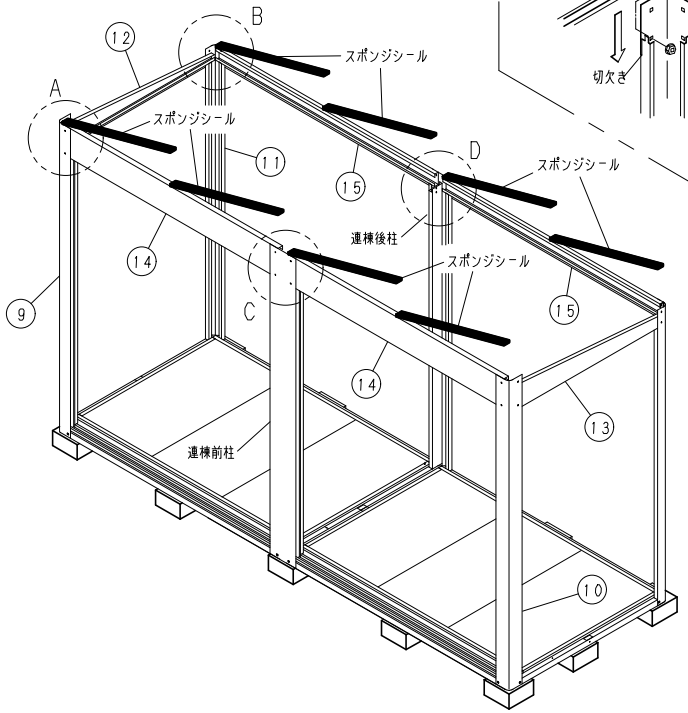
5．上枠中央を連棟前柱中、連棟後柱中のツメに差し込み、連棟用中柱Aを中央側の土台横右⑤と上枠中央の角穴に差し込んだ後、ボルト・ナットで取り付ける。
＜E図・F図・G図参照＞
（M6x10カラーボルト　4コ）（M6ナット　3コ）
（M6x10メッキボルト　5コ）

A図

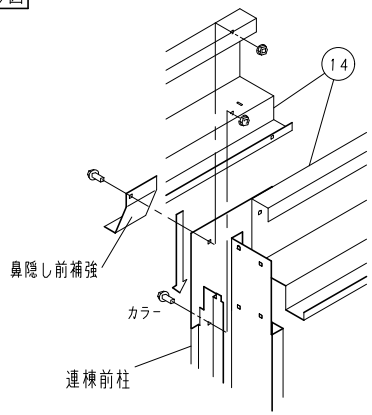


B図

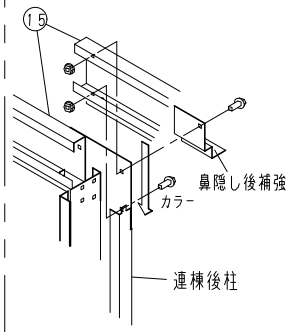




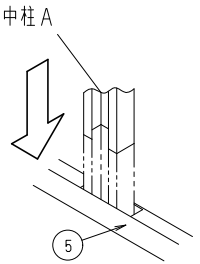
C図



D図

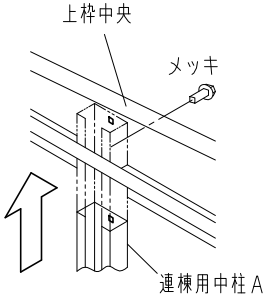


E図

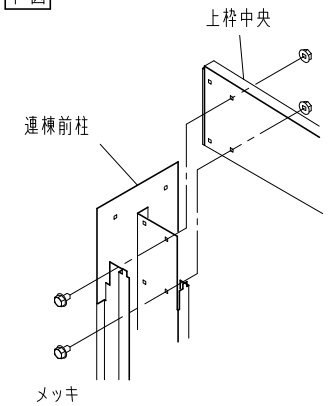


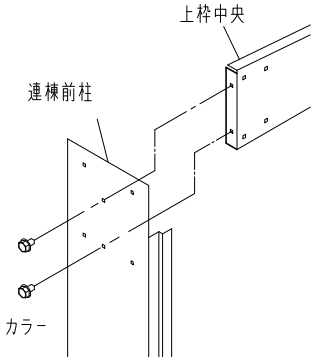
1．連棟用中柱Aを土台横右⑤の角穴の中に入れて下さい。

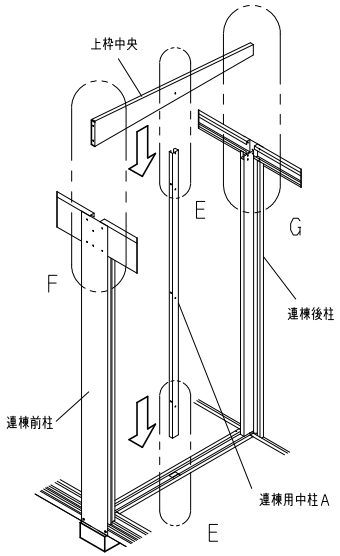
2．上枠中央の角穴に連棟用中柱Aを差し込んで下さい。



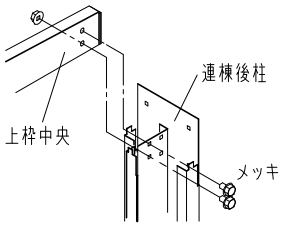
F図

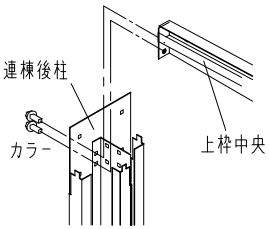






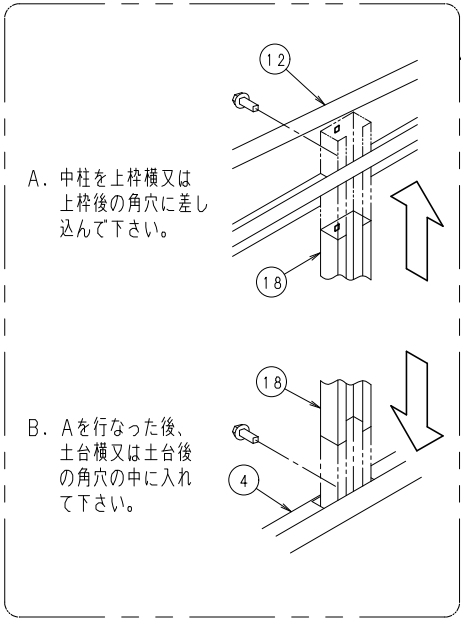
G図

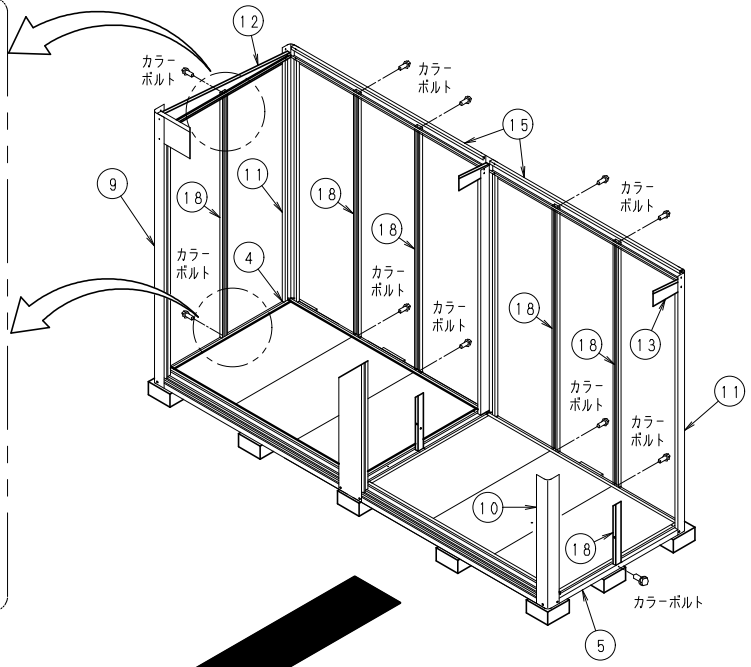




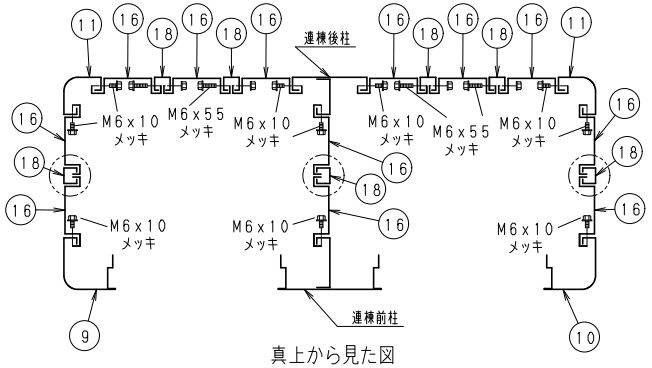
7

1．中柱⑱を上枠横右／左⑫⑬と土台横④⑤にある角穴にそれぞれ差し込み、ボルトで固定する。
（M6x10カラーボルト　4コ）
2．中柱⑱を上枠後⑮と土台後③にある角穴にそれぞれ差し込み、ボルトで固定する。
（M6x10カラーボルト　8コ）
3．物置内部から壁パネル⑯をそれぞれ土台後③、土台横④⑤前柱⑨⑩、連棟前柱中、後柱⑪、連棟後柱中、上枠横⑫⑬上枠中央、上枠後⑮、中柱⑱に取り付ける。<下図参照>
※先にパネルの下を土台に差込んでからパネルを立てる。
（M6×10メッキボルト　54コ）（M6ナット　24コ）
（M6×55メッキボルト　12コ）

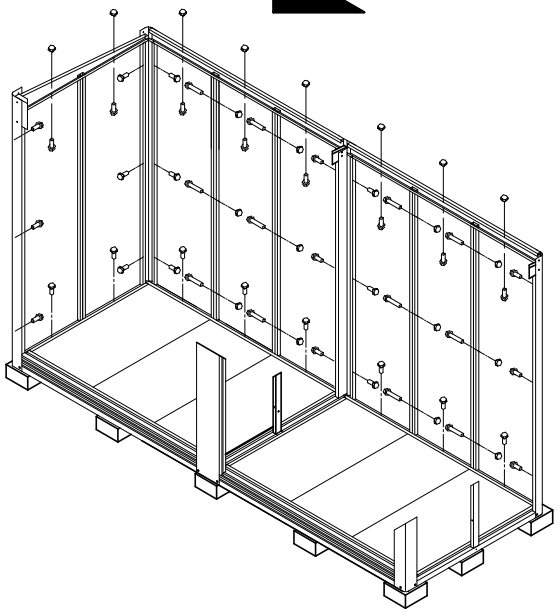


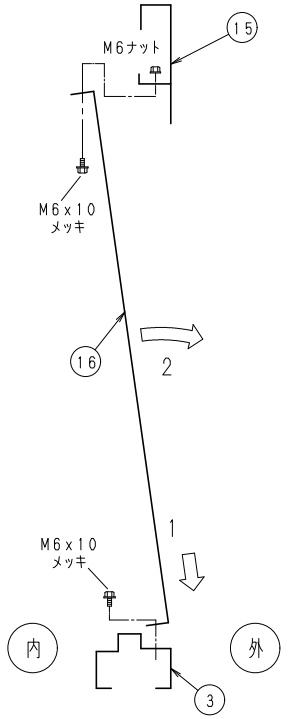


注意：側面の壁パネル⑯２枚と中柱③が組み合う部分（点線部）は、この時点ではボルト留めしないで下さい。
点線部のボルト留めは次のページの「８．連棟用母屋取付柱の組立」で行ないます。



真上から見た図

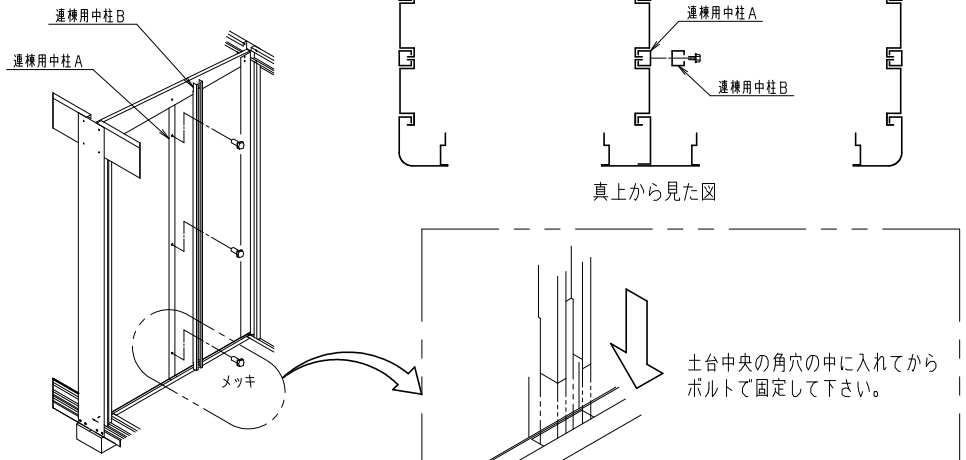




8

1．連棟用中柱Ｂを連棟用中柱Ａに取り付ける。

（Ｍ６ｘ１０メッキボルト　３コ）



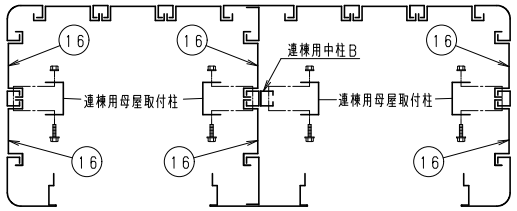
真上から見た図

9

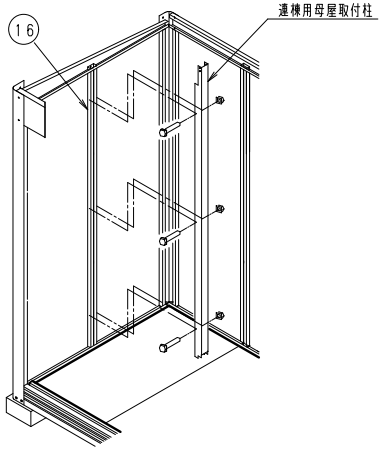
1．連棟用母屋取付柱を側面の壁パネル(16)（３ヶ所）、
連棟用中柱Ｂにそれぞれ取り付ける。

（Ｍ６ｘ５５メッキボルト　１２コ）

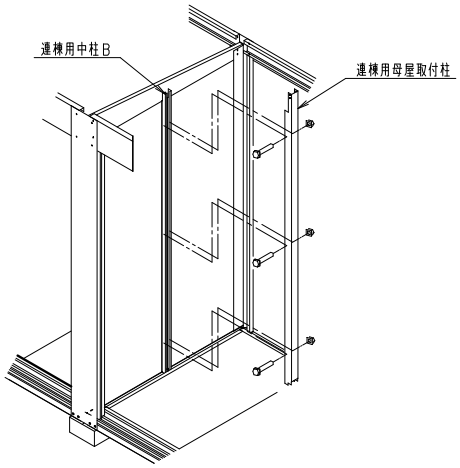
（Ｍ６ナット　１２コ）



真上から見た図



壁パネルに取り付ける場合（３ヶ所）



連棟用中柱Ｂに取り付ける場合

10

1．妻板左／右(25)(26)を上枠左／右(12)(13)にそれぞれ取り付ける。＜Ａ図参照＞

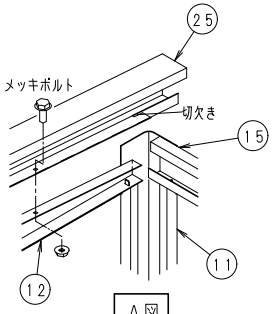
（Ｍ６ｘ１０メッキボルト　４コ）（Ｍ６ナット　４コ）

2．鼻隠し後(19)を妻板左(25)、鼻隠し後補強にかぶせるように
して取り付ける。＜Ｂ図参照＞

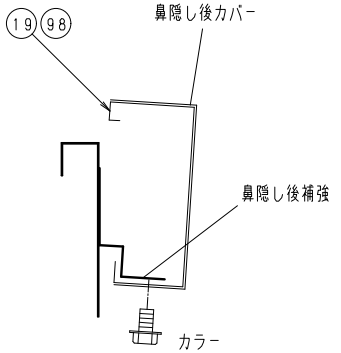
（Ｍ６ｘ１０カラーボルト　３コ）

3．連棟用鼻隠し後(26)を妻板右(26)、鼻隠し後補強にかぶせる様に
して取り付ける。＜Ｂ図参照＞

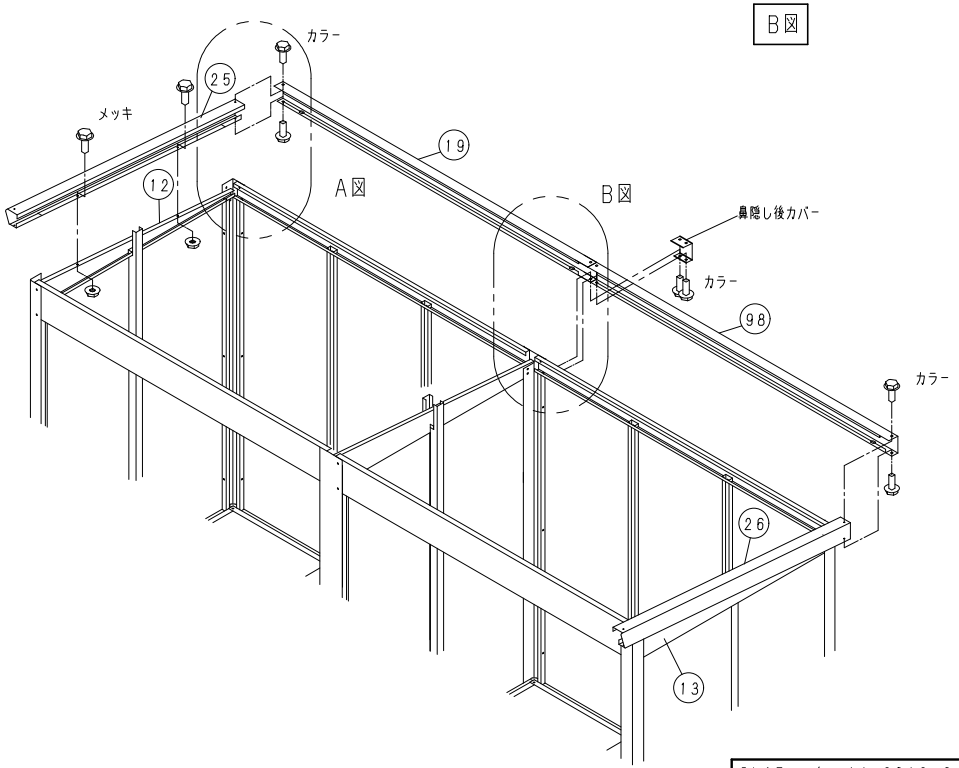
（Ｍ６ｘ１０カラーボルト　３コ）



Ａ図



Ｂ図



11

1．角波（標準）㉘を両端から順にのせ、妻板左／右㉕㉖
の面位置になるようにする。＜A図参照＞

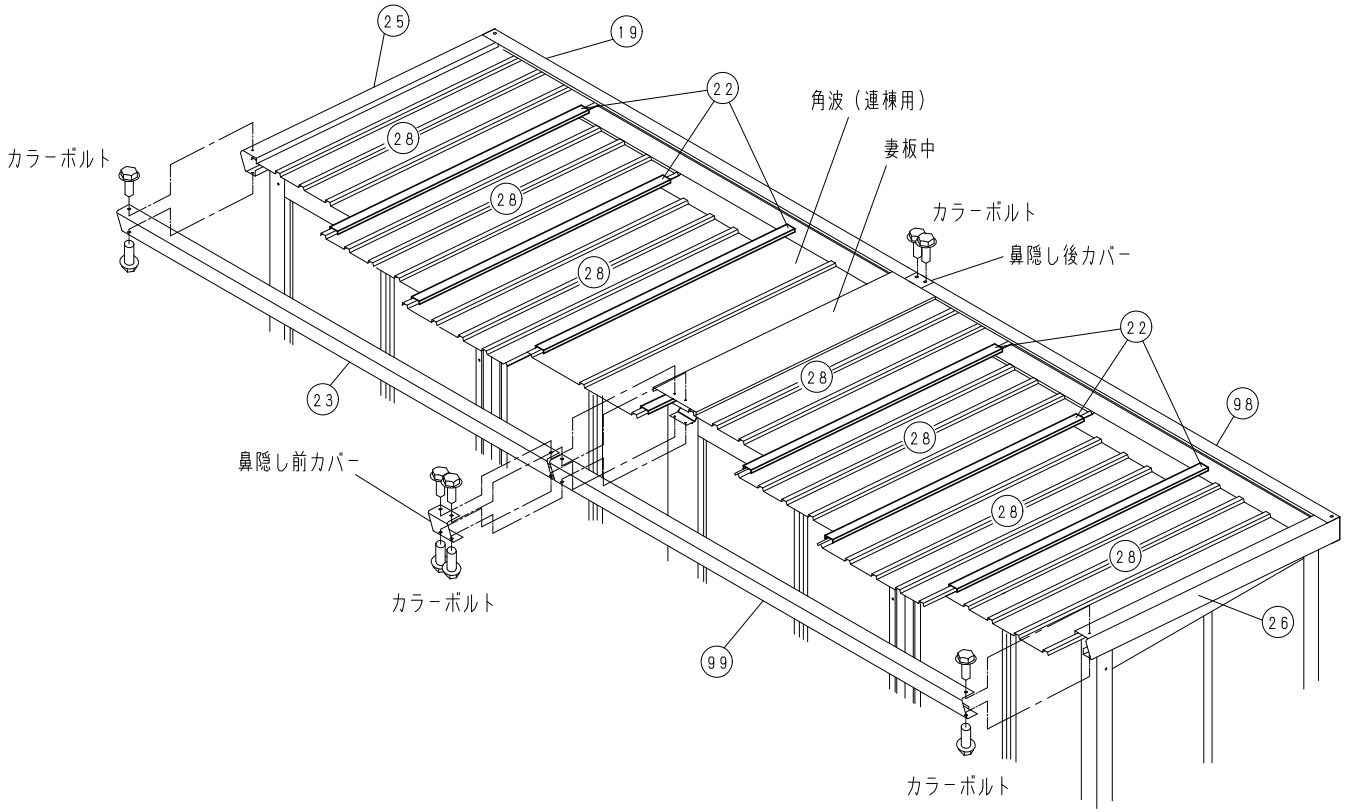
2．角波（連棟用）を角波（標準）㉘の上にセットする。
＜A図参照＞

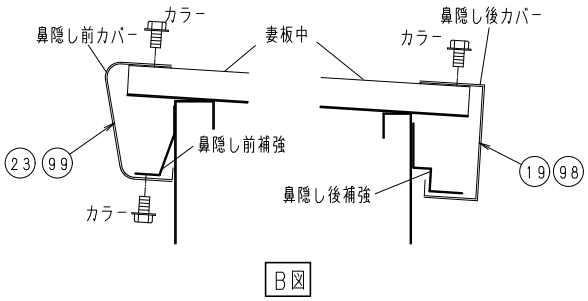
3．屋根押え㉒を角波（標準）㉘、角波（連棟用）の上にのせ
鼻隠し後⑲、連棟用鼻隠し後㊽の奥に突き当たるまで押し込む。

4．妻板中を鼻隠し後⑲、連棟用鼻隠し後㊽の間にある切欠きの中に
差し込み、鼻隠しカバーと一緒にボルト留めする。＜B図参照＞
（M6x10カラーボルト　2コ）

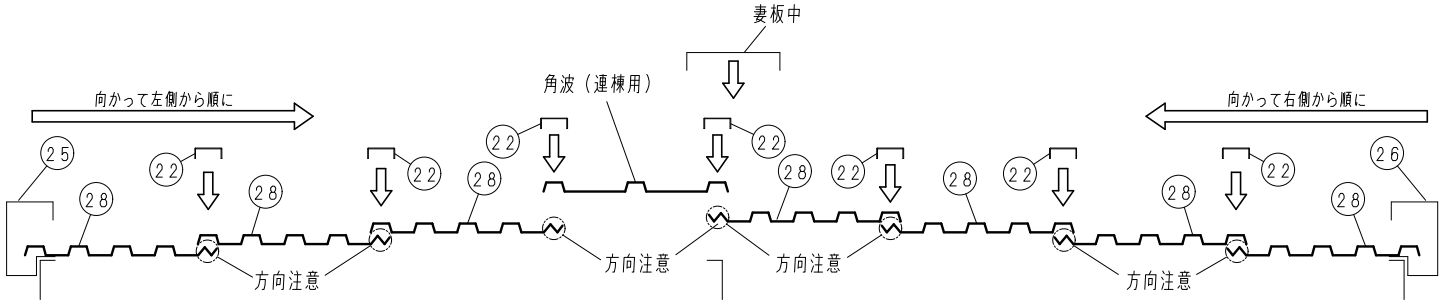
5．鼻隠し前㉓、連棟用鼻隠し前㊾を妻板左／右㉕㉖と妻板中、
鼻隠し前補強にかぶせるように取り付ける。＜B図参照＞
※ボルト留めは妻板左／右㉕㉖にのみ行うこと。
妻板中、鼻隠し前補強へのボルト留めは次の工程で行う。
（M6x10カラーボルト　4コ）

6．鼻隠し前カバーを鼻隠し前㉓、連棟用鼻隠し前㊾の境目に
取り付け、妻板中、鼻隠し前補強と一緒にボルト留めする。
＜B図参照＞
（M6x10カラーボルト　4コ）





B図



㉘ 3枚　　A図　　㉘ 4枚

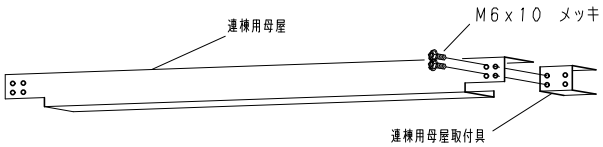
12

1．連棟用母屋に連棟用母屋取付具を取り付ける。<右図A参照>
（M6×10メッキボルト　2コ）（ナット不要）

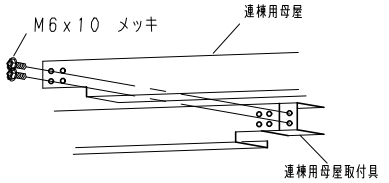
2．1．の連棟用母屋を連棟用母屋取付柱に取り付ける。<右図B・D参照>
（M6x55メッキボルト　4コ）（M6ナット　4コ）

3．もう1本の連棟用母屋を連棟用母屋取付具、連棟用母屋取付柱に取り付ける。
<右図C・D・E参照>
（M6x55メッキボルト　4コ）（M6ナット　4コ）
（M6x10メッキボルト　2コ）

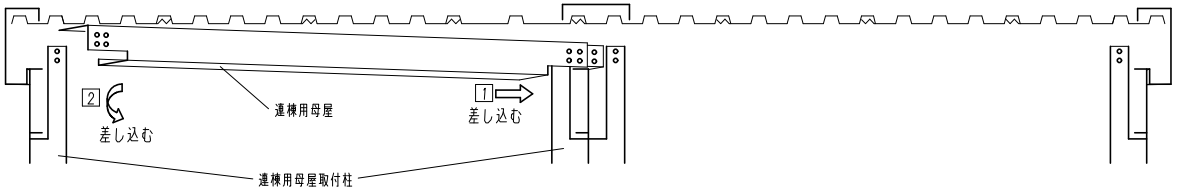
図A

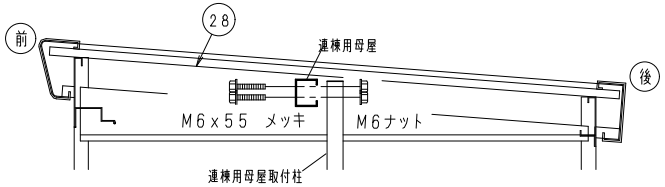


図E



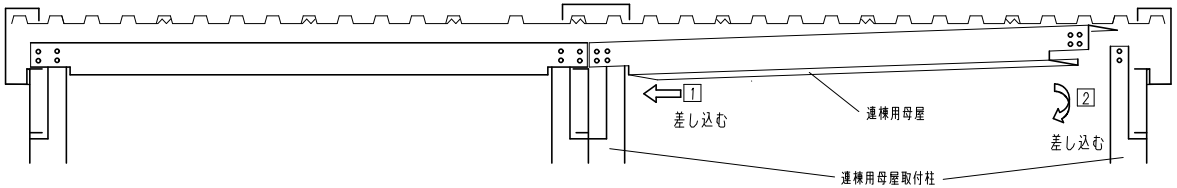
図B





図D

図C



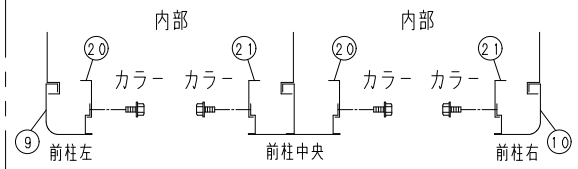
13

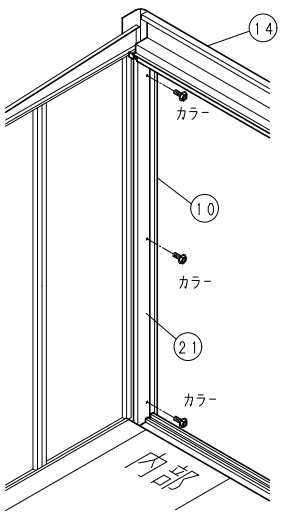
1．前柱補強左／右⑳㉑を前柱左／右⑨⑩、連棟前柱にそれぞれ取り付ける。
※上枠前⑭と前柱補強左／右⑳㉑とのボルト留めはしないで下さい。
（M6×10カラーボルト　12コ）

2．前パネル㉛を前柱補強左／右⑳㉑と土台前（パネル固定）②にそれぞれ取り付ける。
※前パネルの上下方向はありません。
（M6x10メッキボルト　10コ）

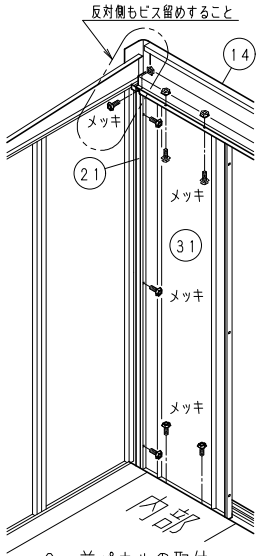
3．前柱補強左／右⑳㉑、前パネル㉛のそれぞれ上部を上枠前⑭とボルト止めする。
（M6x10メッキボルト　8コ）（M6ナット　8コ）

4．開口側の壁パネルの一番見やすい位置に注意ステッカーを貼る。

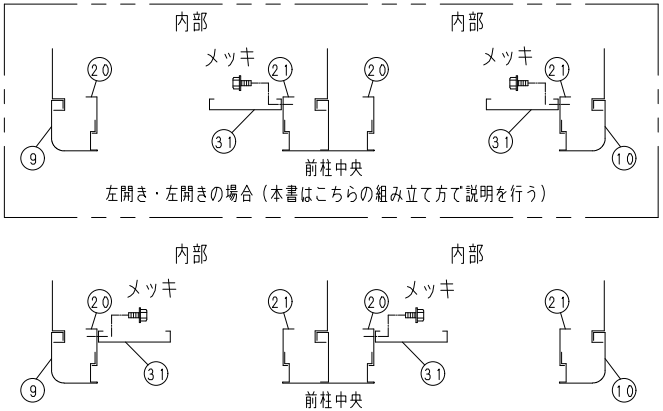




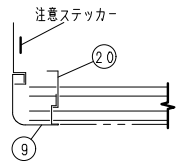
1．前柱補強の取付



2．前パネルの取付
3．上枠前との取付



4．注意ステッカーの貼り位置（例）



14

注意：左開き・右開きによって、前扉・後扉の振れ止めを取り付ける位置が上下逆になりますので、右図を参考に注意して取り付けて下さい。
※振れ止めはパチンと音がするまで押し込んで下さい。

1．前扉(33)に引手、錠前、振れ止めを取り付ける。＜2セット＞
（M6x12ネジ　W+SW付き　4コ）（M6ナット　4コ）

2．後扉(32)に振れ止めを取り付ける。＜2セット＞

3．戸車取付金具にそれぞれ戸車を取り付ける。
（スプリングワッシャー付きM6ナット　8コ）
※前扉用、後扉用それぞれ4セット必要です。

3．連動コマにOリングを取り付け、その後連動コマ取付具に取り付ける。＜2セット必要＞
（スプリングワッシャー付きM6ナット　2コ）

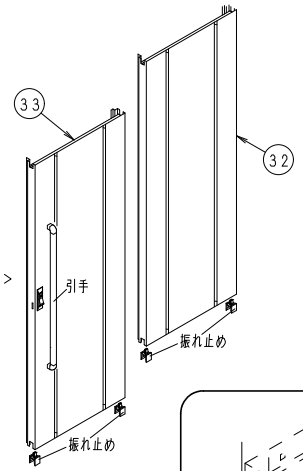
4．後扉(32)を取り付ける。
・扉下部の切欠きを下レール内側にはめる。
・後扉に連動コマを取り付ける。
・戸車（後扉用）を上レール内側にのせ、後扉(32)に取り付ける。
（M6x10メッキボルト　10コ）（M6x30ボルト（高さ調整用）　4コ）
（スプリングワッシャー付きM6ナット　4コ）

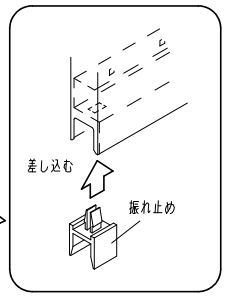
5．前扉(33)を取り付ける。
・扉下部の切欠きを下レール外側にはめる。
・戸車（前扉用）を上レール外側にのせ、前扉(33)に取り付ける。
（M6x10メッキボルト　8コ）（M6x30ボルト（高さ調整用）　4コ）
（スプリングワッシャー付きM6ナット　4コ）

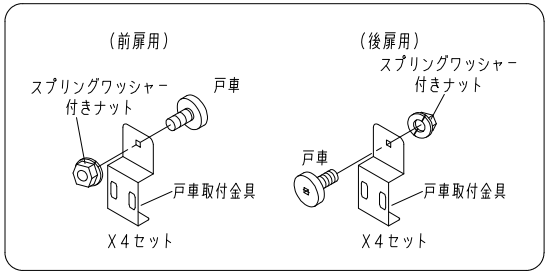
※扉がスムーズに動くように高さ調整して下さい。
SW付きM6ナットは、高さ調整用ボルトのゆるみ止め用です。
扉の調整後、戸車取付金具に向かって締めつけて下さい。

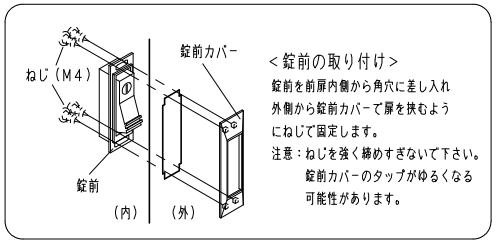
6．前扉(33)に扉ガイド(35)を取り付ける。＜2セット＞
（M6x10メッキボルト　4コ）（ナット不要）

7．扉ガイド(35)の高さ調整をする。
連動コマを上枠前(14)と扉ガイド(35)の両方に触れるように扉ガイド(35)の高さを調整して下さい。
※この時、扉ガイド(35)が上枠前(14)と平行になるように調整して下さい。
しっかりと調整しないと扉が連動しません。
また、スムーズに連動するように、連動コマへの圧力を加減して下さい。



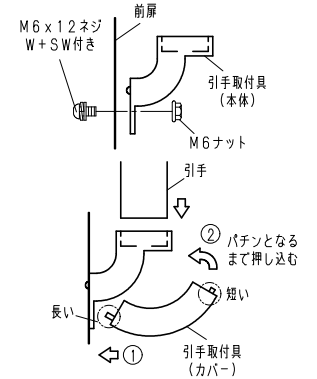




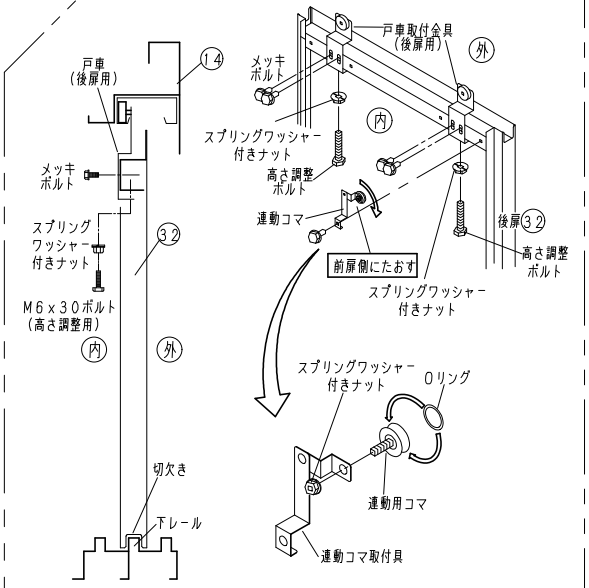


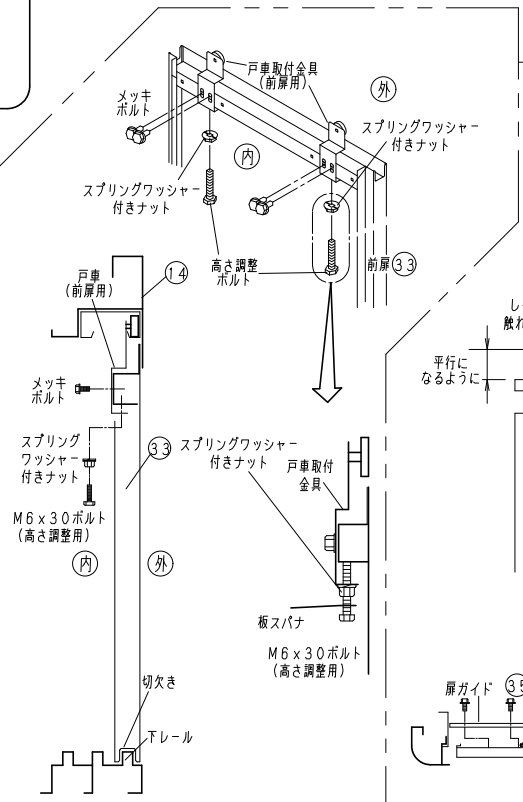
＜錠前の取り付け＞
錠前を前扉内側から角穴に差し入れ外側から錠前カバーで扉を挟むようにねじで固定します。
注意：ねじを強く締めすぎないで下さい。錠前カバーのタップがゆるくなる可能性があります。

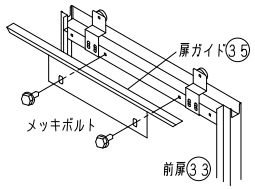
1．引手取付具（本体）を下側に取付ける。
2．引手取付具（本体）に引手取付具（カバー）をかぶせる。
3．引手の切り欠き部分を引手取付具内の凸部に合わせて差し込む。上部も同様に取付ける。

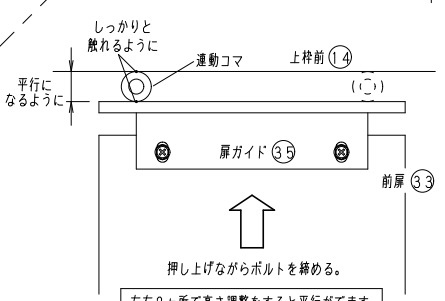


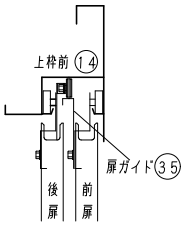
引手取付具（カバー）はつめが長い方が扉寄りになります。

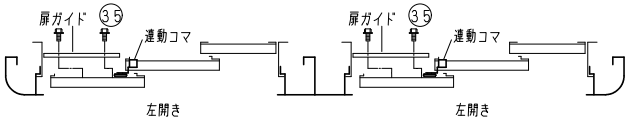












15

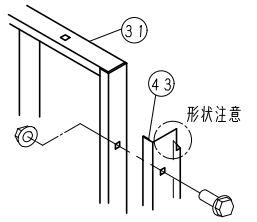
1．扉ストッパー(43)を物置の内側から、前パネル(31)、後扉(32)に
それぞれ取り付ける。

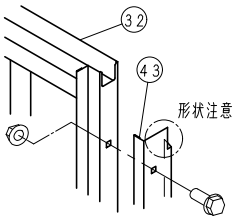
前パネル：(M6x10メッキボルト　6コ)(M6ナット　6コ)
後扉：　(M6x10メッキボルト　6コ)(M6ナット　6コ)

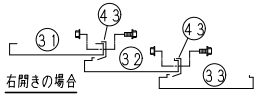
※扉が半開きの位置で取り付けて下さい。
また、扉ストッパーには向きがあります。注意して取り付けて下さい。

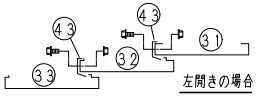
2．前パネル側の前柱にある使用しない鍵穴を鍵穴シールでふさぐ。

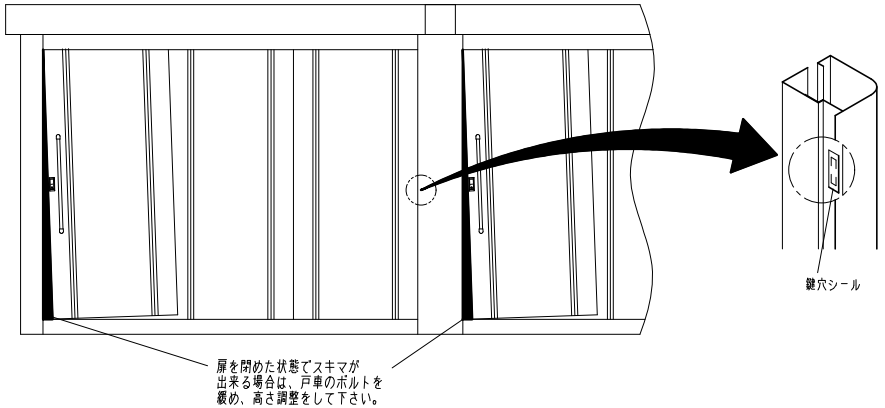
3．扉を閉めた時にスキマができたり、扉が上レールや下レールと
こすれる場合は、扉の高さ調整を再度行なって下さい。
※スキマができると、錠前のフックが届かず、施錠できなくなる
可能性があります。











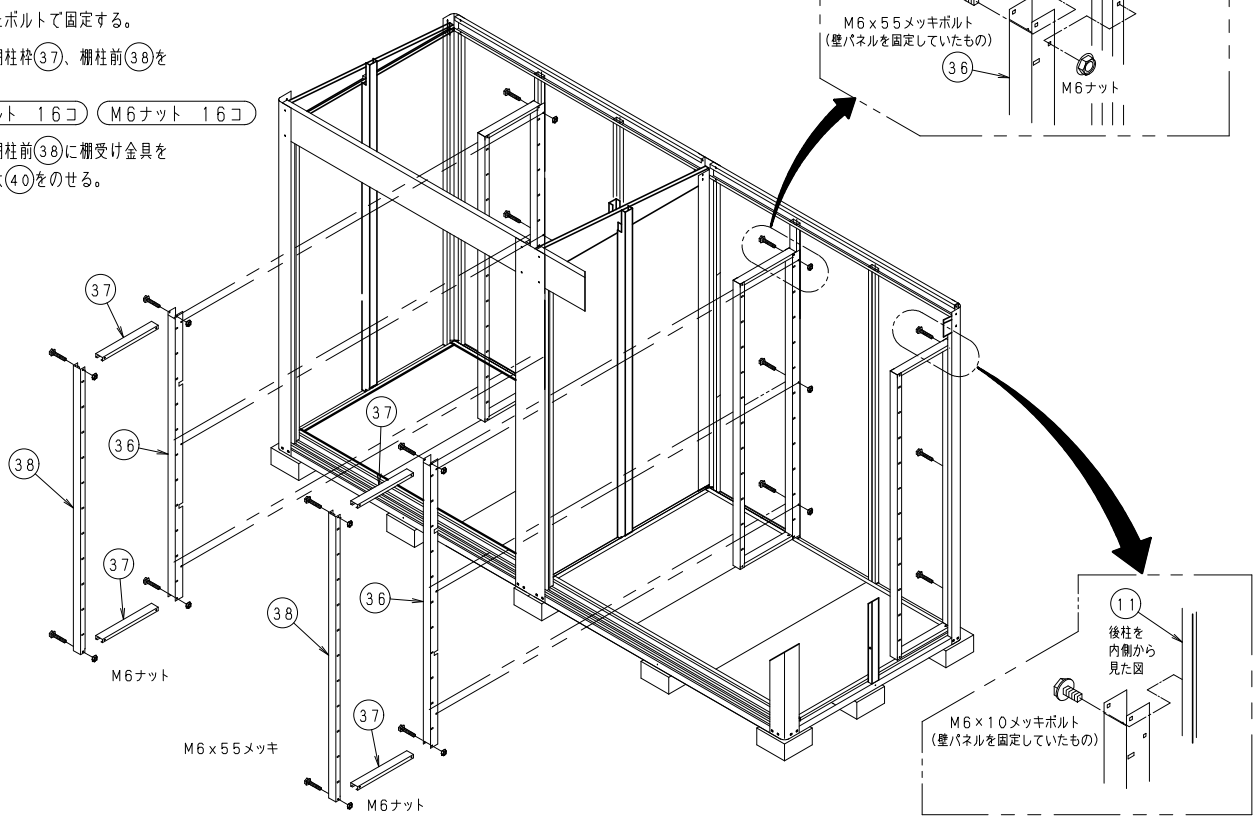
16

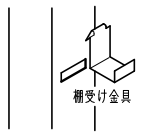
1．棚柱後(36)は後柱、壁パネルと一緒に固定するので、
後柱、壁パネルを留めているボルトを一旦取り外す。

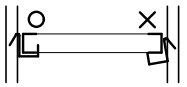
2．棚柱後(36)を後柱、壁パネルにそれぞれ取り付け、
一旦取り外したボルトで固定する。

3．棚柱後(36)に棚柱枠(37)、棚柱前(38)を
取り付ける。
(M6x55ボルト　16コ)(M6ナット　16コ)

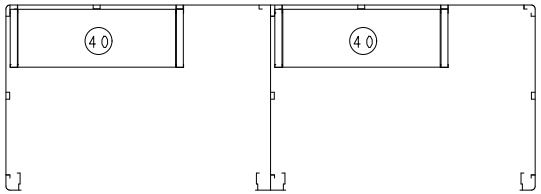
4．棚柱後(36)、棚柱前(38)に棚受け金具を
かけて、棚板大(40)をのせる。

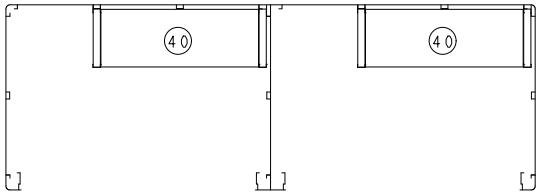






※棚受けに確実に棚板を乗せないと、
棚受けに負荷がかかり変形します。





棚板大(40)取付例

☆棚板大1枚につき75kgまでの物をのせることができます。
ただし棚柱の強度の関係で、棚1ヶ所にのせる総重量は
200kg／㎡以下にして下さい。